

鳥



く 終冬 東國 の こと なる こと なる こと なる
傍 にも なる こと なる こと なる こと なる

下の

程 ほど 此 度 思 ひ の こと なる こと なる こと なる
思 ひ の こと なる こと なる こと なる こと なる
舟 路 を かり たり 山 を かり たり 里 も

上の

お なる こと なる こと なる こと なる こと なる
う なる こと なる こと なる こと なる こと なる
宿 の 名 残 も

リキチキチアツタツテ
ハノコトナシク

詞

ハノコトナシク
ヒトハナシク
カヨシキ

カヨシキ
カヨシキ

河原院とや

カヨシキ

月もろや

浦のひや

河とそあま

波の老り

大ぬな

西よ了

コトハ

福せい

秋ハ

三十一

二

下寄

河原院三う志わりの万此備ふよ

融大なる賀の極寃を邦乃中に

うけをともたる海色なもてな上なる

流とらる河原院乃多のいをも

く免池ぬをもくめ爰極寃の備

人なるを極寃とならるおかえぬ

うや半公よく陸奥に千賀此

極寃を邦乃中より清く祈らる

事な及了るぬいあまなるる

まのきり清くらるる三あまなるる

まのまりきりの志万いよ融大臣

清く船をりせ清海高乃遊葉

さるまくなわーはろーや

月ころつるるゆん早突る月此

物そいそやあはれまゝの島の
もわのこす成りしを能くし
そくはわな志も身に結了月影
まろも孤舟小堀ふ方結とりそ
思ひ出し移りしは ひと唄に流
面あ乃き一たの流僧の流方に
まろあそとへも愛時り言葉

かたきさい宿す池中の結 傍ハ
鼓月下乃門 推も だそも
お人の心 今目前に結音り
あやし 実やソしんも月よん
子雲子志か寛徳ソくうそあ巻
秋も半小く松風もく流るわや
暮のまのまは乃志万かそそ

二一 下、二一 二二 一、二二 下、二二 一
あもたき液呈者乃誌を陸奥此
子契の浦自然なりめ其やく
塩竈乃浦を邦乃中にうけを
たる心りき清物りころん

者磯磯天皇此清字に融大行と
ト一一人陸奥乃子契の塩竈此
眺望をや及及び能哉乃うらふ

うけ一なきおた液波の三は乃
浦一も日毎にき一お然汲を
ごもろ塩をやりをほご一
清遊のたうわ電志新ふ然遊
其後いお後一もろ遊小人も
な悪おるごろ冬甲快ひ志か
成り池邊小らと母たうま水ハ

雨の残里此少寐江子おち葉
 ちわうをねたの月うまひきん
 蝶風の音のえ残つらわあわ
 上 づれを歌もも君をききわ
 づしり 梅窈乃備きひーも
 ぬく液ふかど費うもほめい
 高 実やなる世も月のみくす体

志か加ま此備さひーくもあ
 大は乾池の世も志かー
 老乃彼もらへあやまあ者
 上 ちや 悲しやくも
 とも歎々とももひもなを魂
 浦子名音をのみ時るこや
 詩 づは耐庵づく液とあふく

三言

皆必所よりういへば教ふん

いんふは必所よりうは飛ゆん

菱中いへば三言いへばあまにみえ

いへばをとけ山より三言いへば依

あまこより音羽山三言音羽山

なまふまへはへお板のせむす

いへばいへばいへばお板いも

程をうあらうら誘三言何乃いへば

いへばいへばいへばいへば

あまこいへばいへばお板のいへば

音羽子候三言いへばいへば

いへばいへばいへばいへば三言音羽北

いへばいへばいへばいへば三言山が久遠

いへばいへばいへばいへば三言いへば

清くさうと志と懐素乃歌の中山

清果るが野とたあまらう

梅里末よりついで里一村乃

森此ころもうたを志家へ母

清苑勢よまふたあしと連懐秋

なもたれお葉もあをきひあわ山

のきもくお整く雲の端乃梢も

あをふ枝乃色 二詩 しのあう秋よ

あめしおふあハあしし藤乃森

みと金徳をもしきあさ野山に

ほくを里ハ ニテ上カ あまらう

おふと折冬 二詩 燈色のあまらう

かろく刀気 二詩 うたうくあまらう

深草山よ 二詩 木幡山は見乃竹田

波乃みはるかかまほうく人の
ら宵暮月城尺ちのく子も繁れ
備わもきき世小を乃こひ
まうらきみ融乃火行と皮裁子
あわお極寤のうに心をうせ
お遠まうきり時乃まほりき小
の月小少ひをうりる月宮殿の

下
白衣乃袖もごま中子新月落
上
以流ぶ忍少海や雲城めくくす
上
雲子ろくまひや植の枝くは
上
ひるをを花と地くひりうかい
上
爰少もなまう流きう川の浪乃
上
意ホも一袖や虫水子ごりほよ
上
まをたわく遊葉の袖あ

おもゆる乃遊樂やうもひ月形
甲中にまたり月乃宵入り
教女海もしくなまきつりなる
謂ならずん けいけい西州入り
ズハ懐とこをきけい 其教日
かゝるをままだとくを月の阿房
おひ星れうひきりこもくをわ

上地

刻陽乃春のりーめゆは 霞々

申ふ魚乃と我山 赤ゆけい懐

さへ三月月形 教をゆもて

たもんうかこ 水中の遊魚ハ

けわろわ山ささる 雲上懐

形各々引けりもともきく

一輪も扱す 萬あるも果る

上地

上地

上

かハ池邊乃林小前上地魚

月下子波子名上地カクあり

條の本方上地名もな貴上地みも

名あし上地河まもりやうけ

馬こ小貴了のこ上地子貴也あわ

雨とがぬ此光信よ上地まうりま

ぼんじ部小りか所ふ上地疑ひあ

名幾か一の面影屋ふ上地るを信の

ホモのき



